大館北秋田地域林業成長産業化協議会

連絡会議（構想検討会）

協議記録

日時：令和４年７月７日（木）午前の部　１０：００～１２：００

午後の部　１３：３０～１５：３０

会場：大館市北地区コミュニティセンター　別館２Ｆ　多目的室

令和４年度　大館北秋田地域林業成長産業化協議会　連絡会議（構想検討会）　出席者名簿（実績）

No.	区分	商号・団体名	役職	氏名	備考	AMグループ	PMグループ
1	森林組合	大館北秋田森林組合	課長	阿部　昌宏	午前の部	A	－
2	素材生産者	㈲阿部林業	（欠席）			－	－
3	素材生産者	㈲髙橋造林	（欠席）			－	－
4	素材生産者	㈲畠山造林	（欠席）			－	－
5	素材生産者	㈲花田造材部	（欠席）			－	－
6	素材生産者	㈱リンショウ	（欠席）			－	－
7	素材生産者	㈲伊東農園	部長	佐藤　保	午前の部	B	－
8	素材生産者	㈲新林林業	（欠席）			－	－
9	素材生産者	㈲山田造材部	（欠席）			－	－
10	素材生産者	山一林業㈱	（欠席）			－	－
11	素材生産者	小林林業	（欠席）			－	－
12	素材生産者	㈱石川組	代表取締役	島崎　祐男	午前の部	C	－
13	素材生産者	㈱西村林業	（欠席）			－	－
14	素材生産者	㈲中村造林	（欠席）			－	－
15	苗木生産者	佐々木　正一	（欠席）			－	－
16	苗木生産者	杉沢農園	（欠席）			－	－
17	苗木生産者	三浦農園	（欠席）			－	－
18	苗木生産者	渡部種苗園		渡部　義直	午前の部	A	－
19	苗木生産者	㈱黒沢苗畑事業所	常務取締役	阿部　智弥	午前の部	C	－
20	苗木生産者	錦木ワークセンター	（欠席）			－	－
21	製材・加工事業者	秋田ウッド㈱	（欠席）			－	－
22	製材・加工事業者	遠藤林業㈱	（欠席）			－	－
23	製材・加工事業者	㈱沓澤製材所	（欠席）			－	－
24	製材・加工事業者	昭和木材㈱東北支店	（欠席）			－	－
25	製材・加工事業者	藤島木材工業㈱、藤島林産㈱	（欠席）			－	－
26	製材・加工事業者	二ツ井パネル㈱	代表取締役	鈴木　稔	午後の部	－	C
27	製材・加工事業者	古河林業㈱	（欠席）			－	－
28	家具・工芸事業者	㈱大館工芸社	代表取締役	戸嶋　一之	午後の部	－	B
29	家具・工芸事業者	㈲柴田慶信商店	（欠席）			－	－
30	家具・工芸事業者	㈲日樽	（欠席）			－	－
31	家具・工芸事業者	ＨＯＬＴＯ	（欠席）			－	－
32	木質バイオマス事業者	北秋容器㈱	代表取締役	都　岩男	午前の部・午後の部	D	－
			統括部長	松山　孝太	午前の部・午後の部	D	－
33	木質バイオマス事業者	㈱タクミ電機工業	（欠席）			－	－
34	木質バイオマス事業者	ＶＯＬＴＥＲ　ＡＫＩＴＡ㈱	経営企画部長	花田　元	午前の部	C	－
35	木質バイオマス事業者	ＫＳウッドソリューション㈱	（欠席）			－	－
36	木材流通事業者	秋田原木市場㈱	営業課長	斉藤　盛	午前の部・午後の部	A	－
37	木材流通事業者	物林㈱	資材グループ長	田口　慎二	午前の部・午後の部	B	B
			室長	関口　祐之	午前の部・午後の部	C	C
38	住宅事業者	㈱秋田ホーム	（欠席）			－	－
39	住宅事業者	㈲安部工務店	（欠席）			－	－
40	住宅事業者	㈲石川建築	（欠席）			－	－
41	住宅事業者	㈱太田建築工房	（欠席）			－	－
42	住宅事業者	大館桂工業㈱	（欠席）			－	－
43	住宅事業者	㈲坂忠工務店	（欠席）			－	－
44	住宅事業者	直洋建設㈱	（欠席）			－	－
45	住宅事業者	殿村工務店	（欠席）			－	－
46	住宅事業者	㈲ハセベホーム	（欠席）			－	－
47	住宅事業者	丸山建設㈱	（欠席）			－	－
48	住宅事業者	三浦木材㈱	（欠席）			－	－
49	住宅事業者	㈱みらいえ工房	（欠席）			－	－
50	住宅事業者	㈱ヤナギヤ	代表取締役	柳谷　金悦		－	B
51	住宅事業者	㈱ワイズホーム	（欠席）			－	－
52	建築設計事業者	秋田県建築設計事業（同）	（欠席）			－	－
53	建築設計事業者	アトリエ１０５	（欠席）			－	－
54	建築設計事業者	㈲アトリエ建築設計室	（欠席）			－	－
55	建築設計事業者	佐藤構造設計		佐藤　和彦	午後の部	－	C
56	建築設計事業者	設計チームおおだて（同）	（欠席）			－	－

令和４年度　大館北秋田地域林業成長産業化協議会　連絡会議（構想検討会）　出席者名簿（実績）

No.	区分	商号・団体名	役職	氏名	備考	AMグループ	PMグループ
57	建築設計事業者	㈱田中建築設計事務所	（欠席）			－	－
58	建築設計事業者	㈱恒谷汲川建築設計事務所	代表取締役	信濃屋　豊久	午後の部	－	C
59	建築設計事業者	二級なるみ建築設備設計事務所	（欠席）			－	－
60	建築設計事業者	ＭＩＵＲＡ設計室	（欠席）			－	－
61	建築設計事業者	㈲ミラ企画設計室	（欠席）			－	－
62	建築設計事業者	むりん庵　一級建築士事務所	代表	中沢　雄大	午前の部・午後の部	D	B
63	建築設計事業者	庸五建築事務所	（欠席）			－	－
64	IT・ICT関連事業者	東光鉄工㈱	執行役員	藤田　真	午前の部・午後の部	A	C
			管理部長	戸田　欣吾	午前の部・午後の部	B	－
			営業課長	高橋　成典	午前の部・午後の部	C	B
65	IT・ICT関連事業者	東光コンピュータ・サービス㈱	部長	戸田　宏幸	午前の部・午後の部	D	B
			係長	藤井　実樹子	午前の部・午後の部	B	C
66	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	（欠席）			－	－
67	オブザーバー	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	支部長	黒澤　良勝	午前の部	D	－
68	オブザーバー	大館曲げわっぱ協同組合	（欠席）			－	－
69	オブザーバー	秋田県立比内支援学校	教諭	畠山　純	午前の部	A	－
70	オブザーバー	米代東部森林管理署	（欠席）			－	－
71	オブザーバー	米代東部森林管理署上小阿仁支署	（欠席）			－	－
72	オブザーバー	秋田県北秋田地域振興局	（欠席）			－	－
73	オブザーバー	秋田県鹿角地域振興局	主幹	木村　明憲	午前の部・午後の部	B	－
74	市町村	鹿角市	（欠席）			－	－
75	市町村	小坂町	（欠席）			－	－
76	市町村	大館市	林政課長	小棚木　信晴	事務局長	－	－
			林政課木材産業係長	大澤　洋	事務長	－	－
			林政課木材産業係	千葉　泰生	事務員	D	B
			林政課木材産業係	安部　千夏	事務員	－	－
			林政課森林整備係長	伊藤　正行	事務長	A	－
			林政課森林整備係	安保　貴洋	事務員	B	－
			林政課森林整備係	加賀谷　洋昌	事務員	C	C
-	委託事業者	森林資源バイオエコノミー推進機構㈱	代表取締役	高田　克彦	事務局支援	－	－

【R04.07.07 連絡会議（構想検討会）】

連絡会議（構想検討会）では、林業成長産業化地域構想（平成２９年度～令和３年度）の取組結果を踏まえた現状と課題について説明し、分野別の課題抽出と地域理想像の確認のためのグループワーク（意見交換）を行いました。

【協議内容】

司会進行：事務局

１　開会

２　事務局長あいさつ要旨　※午前・午後共通

・本日の連絡会議は当協議会が新たな体制となってから初の会議となり、特に４月より新たに入会された会員の方々は、どのような雰囲気で会議が進むのか、といった不安もあるかと思う。なるべく一つでも多くの意見を集約できるようにグループワークの時間を設定しているので、積極的な発言をお願いしたい。

・本日のテーマとしては、当協議会における新たな構想策定に向け、構想の内容や方向性に関する意見交換の場として位置付けている。今後の協議会の取り組みの方向性を決める内容であるため、皆様のご協力をいただきたい。

３　協議案件【進行：森林資源バイオエコノミー推進機構㈱】

（１）地域概要について　※午前・午後共通

＜事務局＞

・配布資料１について説明。

＜森林資源バイオエコノミー推進機構㈱　高田代表＞

・資料１の５ページ「スギ調達における重要ポイント」について、「価格」、「品質」、「供給安定性」を重視しており、「ブランド」については最も少なく、重要ポイントになっていない点について着目してほしい。

⇒配布資料１について質問等無し。

（２）協議会アンケート（３月実施）の結果と構想構成について　※午前・午後共通

＜事務局＞

・配布資料２－１、２－２について説明。

⇒配布資料２－１、２－２について質問等無し。

（３）分野別グループワーク（分野別課題抽出と地域理想の確認）

〇グループワークの進め方について

＜事務局＞

・配布資料３、４について説明。

〇各グループでの発言等
対象分野：「森林整備・素材生産」、「苗木生産」、「木質バイオマス」
【Ａグループ】
＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・わが社では、少子高齢化による担い手不足の解消に向けて省力化に貢献できるようドローンの開発を進めている。現在１０ｋｇ程度の物しか運べないが、３０ｋｇ以上の物を運べるようにしたい。苗木の運搬に利用できればと考えている。

＜会員（木材流通事業者）＞
・事業主も従業員も高齢化による後継者不足が大きな問題である。若い人はなかなかこの業界には入ってこない。

＜会員（苗木生産者）＞
・エリートツリーの開発が話題となっていたが、下刈などの作業が省略できるようになるのではないか。

＜会員（オブザーバー）＞
・教育的な観点から子どもたちに木を好きになってもらえるような木育を進めている。将来的この業界に就職したいと思ってもらえるようになればいいと考える。

【Ｂグループ】
<u>～人材確保について～</u>
＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・ＵＡＶ事業部が来年度から林業分野への取組みを本格化。

＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・林業業界における担い手不足を耳にするが、実情はどうなのか？若手の離職状況が不明である。スマート林業で若手雇用の向上を図れるのではないか。

＜会員（素材生産者）＞
・当社での担い手不足は感じていないが、業界全体では感じている。従来のチェーンソー作業から、性能が著しく高い林業機械導入により作業効率化、身体的負担軽減が図られるも管理業務（下刈り・造林作業）に劇的改善が見られず過酷な作業に耐えられないという現状。山の条件（傾斜、伐根など）にもよるが辛い作業に変わりはない。
・労災が減らない。永遠のテーマなのかも。昨今、ベテランに多く発生する傾向。
・労災ゼロを目指す講習の充実へ。

＜会員（オブザーバー）＞
・先月６月１５日鹿角市八幡平で死亡事故あり。伐採作業をしていた７２歳男性が伐採木の下敷きになった。７月安全講習開催予定とのこと。

～再造林対策について～
＜会員（素材生産者）＞
・再造林率ＵＰの為、伐採届出制度の見直し。
・登録制度により、再造林に意欲ある業者を吟味。
・林道整備による森林経営管理の充実（再委託率ＵＰ）

＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・林業企業体、森林所有者双方への啓蒙が大事（どちらを先に啓蒙すべき？）

＜会員（木材流通事業者）＞
・企業がＥＳＧに配慮した経営、Ｊ－クレジットなどを意識している。山の価値が上がり、見直されている中、再造林を行わないと厳しい目が向けられる。

【Ｃグループ】
＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・産業用ドローンは今のところ農業分野主体であるが、林業分野では苗木運搬を進めていきたい。
⇒＜会員（素材生産者）＞
・１回１回行き来して運搬するのではなく、ウインチワイヤーを併用したほうが安定するし効率がいいのでは。作業道が残っていれば重機で運搬し、作業道がなければドローン、といった使い分けが良いのでは。費用対効果を実証してほしい。

＜会員（素材生産者）＞
・林業の理想は伐ったら植えるであるが、再造林は３０～５０年後への投資であるためメリットが見えにくい。孫世代、会社の将来について考えてほしい。
・当社は各種補助金を活用してなんとか再造林できている。１００ｈａ以上の山林を保有していなければ属人として森林経営計画を作成できないため、個人や小規模事業者では森林の集約化が難しく、施業の効率が悪くなる。
・当社は林業と土木の融合に取り組んでいる。土木事業の閑散期には土木作業員も山に行って木を伐る。一級建築士にもチェーンソーの資格を取得させ、従業員４０～５０人をかき集めて一気に伐採や再造林を実施している。
・補助金書類が多く煩雑化している。補助申請や森林経営計画作成に関する勉強会の実施を検討できないか。また、事業者の事務作業負担軽減や施業の集約化といった観点から、市の森林経営計画と共同して作成できないものか。

＜会員（木材流通事業者）＞
・木を使う川中、川下の事業者にも再造林の費用を負担してもらえば。川上から川下全体からの互助金など。
・カーボンニュートラルを目的とするのなら環境省からの補助金を期待したい。
・川上から川下のサプライチェーンを確固たるものとする。需要と供給のバランスが大切。

＜会員（木質バイオマス事業者）＞
・バイオマスチップの価格、供給が安定してほしい。

＜会員（苗木生産者）＞
・苗木業者は人手不足。時期的な繁忙期に川上から川下の人材（異業種の人たち）を貸し借りできれば有り難い。
⇒＜会員（木質バイオマス事業者）＞・農協では農業体験、就業体験という名目で、職員をニンニク農家に出している。

【Ｄグループ】
＜会員（木質バイオマス事業者）＞
・協議会が設立される前から木質バイオマス事業に取り組んでいる。引き続き会員の皆さんと連携して取り組んでいきたい。

＜会員（苗木生産者）＞
・山林種苗組合北秋田支部の支部長を務めている。昔は県全体で１００名以上いた組合員も現在は２５名。後継者確保が大きな課題となっている。北秋田支部は全県の６５％分の生産を行っている。
・全体的に普通苗からコンテナ苗の生産にシフトしている。ハウスでの生産が可能で、畑がほとんど不要な反面、水を大量に使う。人材不足で管理が大変である。

＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・森林組合向けシステム開発に取り組んでおり、全国展開している。伐採から販売までをトータル管理するシステム構成となっているが、今後は取得してきたデータをどのように活用していくかがポイントになってくると思う。
・女性の雇用や林業ガールなど、林業への女性の積極的な参画が活性化につながるのでは。

＜会員（建築設計事業者）＞
・建築士として家づくり等を通じて林業の活性化に貢献したい。
・現在は移住定住事業に取り組んでいる。イベント開催を通じて若者を集めていきたい。

対象分野：「木材加工・流通」、「家具・伝統的工芸品」、「住宅事業・建築設計」

【Ｂグループ】

＜会員（木材流通事業者）＞

・５年間のモデル事業では地域内では使い切れない分を都市部へ流通させる、いわゆる「地産外商」の取組みに貢献させていただいた。

・午前中の川上分野でのグループワークでは「再造林率の向上（県目標 50%）」、「人材の確保（機械化、ＩＣＴ）」、「林業に関する教育」といった課題があげられた。

＜会員（家具・工芸事業者）＞

・曲げわっぱの製作に取り組んでいる。秋田スギを活用したいが、品質の良い材の調達が難しく、県外産に頼らざるを得ない状況になりつつある。

・能代は製材工場が数十社あるのに対し、大館は相当数減少。大径材を製材可能な工場がなく、苦慮している。

＜会員（建築設計事業者）＞

・一級建築士として活動しているが、地域内の既存のマーケットへの参入が難しいため、移住定住事業に取り組んでおり、空き家の有効活用を模索している。

・林業の課題は収入が少ないということが課題だと認識しており、建築士として多くの関連事業者と連携することで林業の収入アップに貢献したい。

＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞

・森林組合向けのシステム開発に取り組んでいる。林業は元々大館の基幹産業であり、林業に携わる企業として再び基幹産業としての林業を復活させたい。

・ＩＴ分野を通じて自分たちが欲しいものを供給できる仕組みづくりに貢献していきたい。

＜会員（住宅事業者）＞

・秋田スギを使った家づくりを行っている。構造材以外は秋田スギを使用している。墨付けができるよう大工の技術向上にも取り組んでいる。

・最近山の伐採が増えているように感じるが、伐採後は植えているのか？という感覚。

＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞

・ドローンを活用した苗木運搬に大館市と取り組んでいる。取組みを通じて若者の雇用につなげていきたい。

【Ｃグループ】
＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・再造林の作業効率化のためドローンで苗木運搬の実証実験を行っている。
・ドローンやＩＣＴ、ＩＯＴで若者の興味を引く役割を果たせれば。

＜会員（IT・ICT 関連事業者）＞
・「循環の輪」のスタートは「再造林」であるがＩＣＴ化、機械化が難しい。
・ＳＤＧｓで森の価値が上がる⇒造林マイスターによる啓発活動に期待。

＜会員（木材流通事業者）＞
・午前中に再造林基金として集金して施業という意見があった。
・再造林の補助金はあるが、まだまだ浸透していないと感じる。
・ＩＣＴ化など理想はあろうが最終的には金銭的な問題が出てくるだろう。
・ＳＤＧｓの観点から木を使うことが推進されていくと思われる。ただ、若手従事者が少ないため、伐って植えるというサイクルがなかなか進まないのが現状。

＜会員（製材・加工事業者）＞
・安定した木材供給を図るため、ラミナ全体の４割くらいは国産材に転換していきたい。ただ、大型製材所の参入で人材の取り合いになるのではと懸念。
・外材はスウェーデン産等⇒森林が平坦であるため生産性が５倍以上違う。

＜会員（建築設計事業者）＞
・木材の構造計算は手間がかかるため金にならない。ボランティアでやるレベル。
・設計（住宅）では秋田スギの利用が少ない。強度が弱いため木材の中でも使いにくい。

＜会員（建築設計事業者）＞
・和室の需要が減ってきているので秋田スギが使われにくくなっている。

（４）とりまとめ発表

対象分野：「森林整備・素材生産」、「苗木生産」、「木質バイオマス」

【Ｄグループ】
＜会員（木質バイオマス事業者）＞
・地域の理想像についてグループメンバーより意見を伺ったが、それぞれ業種が違うためまとめきれなかったものの、配布資料に記載された内容のとおり、という印象をもった。
・問題点や課題について、再造林に関しては過去に林業施策があまり推進されなかった時代があり、再造林もされず、苗木生産も滞り、結果的に人材が仕事を求めて外に流出してしまった、という情報提供があった。また、林業の収入減により若手雇用が進まない要因になっているのではという意見もあった。

・木材価格が上昇すると川上側の収入増加が期待できるが、一方では川下側にあたる住宅等の施主の負担が増加してしまう、といった意見もあり、木材の適正価格の設定という点について難しさを感じたところ。
＜会員（建築設計事業者）＞
・取り組み内容について、森林管理～輸送システムの効率化やスマート林業といった取り組みが進めば、収入増につながるのではといった意見もあった。
・イベント等を企画し、木材利用による空き家のリノベーション等で場所を確保し、そのような場で林業に関する知識を広めるなどといった取り組みができるのでは、と自身より提案させていただいた。

【Ｃグループ】
＜会員（素材生産者）＞
・地域の理想像については、川上・川中・川下のサプライチェーンをもっと太くして、つながりを強くしていくことが必要。
・問題点としては先ずは労務の不足。サプライチェーンを構築するにあたって基となるのは再造林・造林であり、これを実行しないと将来的に木材が枯渇してしまう。再造林をするにしても補助金の活用が必要となるが、補助申請するためには森林経営計画の作成が必要であり、作成できる事業者が限られている現状では厳しいのではという印象。
・アイディアとしては、川下・川中・川下の関係者が協定などを締結し、関係者で再造林経費を負担しあうとともに、将来的に生産される木材の安定供給を約束するような仕組みの構築が必要と思われる。また、作業時期に合わせ、他業種間での労務の融通も効果的ではという意見もあった。
・森林経営計画を１者（属人）で作成する場合は、１００ｈａ以上の山林保有が必要。計画作成作業の事務量も膨大であり、専門の事務員を確保できないと対応がとても厳しい。そこのハードルが越えられず、森林経営計画を作成せずに伐採してしまうケースが多い。大館市有林など既に作成されている森林経営計画に参画するというのも一つの手法だと考える。
⇒＜事務局＞・秋田県で森林経営計画作成のためのシステムを開発いただいているが、ある程度の知識がないと対応ができない。林業部門へ異動したての当時の自身も作成にとても困った。県や市町村等で森林経営計画作成に関する普及活動が必要かと思う。

【Ｂグループ】
＜会員（素材生産者）＞
・人材確保について、ＩＴ活用やスマート林業で若者を取り込めないか、といった意見が出たが主には管理業務だと思われる。実際に山に入っての作業は夏場の下刈りや造林はとても大変で、これらの作業の効率化はまだ難しいのではないかと思う。先ずはそういった作業以外の部分でスマート林業の取り組みを進め、若者を取り込んでいくことを理想としたいところ。また、前提として労災を無くすことも大事。労災を無くさないと若い人から

敬遠されてしまう。
・再造林については、秋田県で再造林率５０％を目標に設定しているが、市町村によって１０％、３０％、５０％とバラバラな状況。再造林率アップのためには、伐採後の再造林未実施をＯＫとしてしまう現行の伐採届出制度の整備等も必要では。また、秋田県の認定事業者制度についても登録されれば様々なメリットがあるが、再造林に意欲のある事業体を吟味して認定しく必要もあるのでは。昨年度から県の造林マイスター制度も開始されているので、登録者の今後の活躍に期待したい。
・森林経営管理制度については、再委託まで進んでいる市町村もあれば、あまり進んでいない市町村もある状況。フィールドとして集積された山林をたくさん出していただいているが、対象地までの林道が無いフィールドもあり、山を見に行くことすらできない場合もある。行政への要望としてはもう少し路網整備を進めていただきたいところ。

【Ａグループ】
＜会員（森林組合）＞
・メンバー全員の業種が異なるためとりまとめが難しかったが、地域の理想ということでいうと、配布資料に記載されている内容が実現されればとても良い地域になるのではないかと思う。理想を実現するためには課題や問題点を解決していかなければならないが、メンバーの意見内容を集約してみると、小さい頃から森林や林業に関心をもってもらうような教育的な取り組みが必要なのではと感じたところ。
・Ｂグループでも言及されていた林道整備について、林道にアクセスするまでの農道や町内の中の道路などが狭く、搬出作業がとても困難な地域が多い。大きな目標をたてるよりも、こういったところを地道に改善していくことが森林の循環利用にもつながっていくのではないかと思われる。

対象分野：「木材加工・流通」、「家具・伝統的工芸品」、「住宅事業・建築設計」
【Ｃグループ】
＜会員（木材流通事業者）＞
・地域の理想の姿については、社会的な木材の需要の高まり、木材の価値や環境への貢献度の大きさという面で今まで以上に注目度が高まっている。このような中で引き続き協議会の目指す「循環の輪」を作っていくということで意見は一致した。
・課題については、川上においては、資源は沢山あるものの、再造林を実施していくために若者の雇用が必要であるということ。川中においては、国産材のニーズは増えてきているものの、ラミナ等が安定供給できていないという課題がある中、流域内に大型製材所が進出しており、ますます原料調達面での不安があるといった意見もあった。川下においては、和室が減ってきている状況でスギを使う箇所がほとんどないということと、構造計算をする場合に木造の方が費用倒れしてしまうという課題があげられた。

＜会員（製材・加工事業者）＞
・ウッドショックが発生した原因を考えると、需給バランスで木材の値段が変わるということを実感したところ。現在は木材価格が高騰しているが、この先、また下落してしまうのではということを考えると積極的な設備投資は非常に厳しい。
・山側においても金銭的な問題が多く、再造林が進まない現状がある。基金というアイディアも出ているが、小さい地域でも実施してみて、結果としてどうなったかということを検証していく必要があると思う。

【Ｂグループ】
＜会員（木材流通事業者）＞
・それぞれの立場が違うメンバーで意見交換を行ったが、地域内の川中事業者から木材製品の供給を受けることができず、地域外に求めざるを得ないといった意見もあり、地域内の川中が空洞化しはじめている状況が伺えた。
・利用側の住宅事業者からスギ利用に関する実態についても意見があった。全国的にスギの大径化が進んでいる中で、無垢材を活かしていこうという動きが出ているが、秋田は全国に比べると遅れているという感覚がある。使えるところにはしっかりスギを使っていくという取り組みは地域内でもまだ可能性はあると感じた。

〇まとめ　※午前・午後共通
＜森林資源バイオエコノミー推進機構㈱＞
・本日初めてお会いした方がたくさんいらっしゃると思うが、今日いろんな立場の方からの話を聞いて何かこんなことができるのでは、と思った方は、小さい事でもなんでもいいのでぜひ、先ずはやってみましょう。

４　その他
＜事務局＞
・配布資料５について説明。

５　閉会

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
R4.7.7　連絡会議（構想検討会）　午前の部

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
R4.7.7　連絡会議（構想検討会）　午後の部